キズナエピソード

百波瀬 ここあ　4話

//ヴィジュアルノベル形式開始

//背景：黒

それはとある日の夜遅くだった。

突然、ここあから電話がかかってきたのである。

こんな時間に珍しい。

そんなことを思いつつ、電話を取る。

//次ページ

「とびおっち、どうしよう！」

受話口から飛び出してきたのは、ここあの切羽詰った声だった。

「どうしよう。和哉と達哉が死んじゃうよ……。

　私、どうしよう……！」

//次ページ

声音だけで、彼女がひどく狼狽しているのが伝わってきた。

「どうした、ここあ。いいか、まずは落ち着け。

　深呼吸だ。一度大きく息を吸え。

　そしたら大きく吐いて。もう一回。そうだ……。

　落ち着いたか？

　それで何があった？　言ってみろ」

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

［とびお］

弟が2人とも40度の高熱を出して寝込んでいる。

肝心の父親は出張で帰ってこれない。

ここあはそう言っていた。

［とびお］

俺はここあに「今から行く」と伝えると、

すぐに家を飛び出していた。

//ここあの家・リビング

［ここあ］

「とびおっち……！」

［とびお］

ここあの家にたどり着いたとき、

彼女は今にも倒れるんじゃないかってくらい

血の気が引いていた。

［ここあ］

「どうしよう……。

2人ともお薬飲ませてもすぐゲエしちゃって……。」

［とびお］

「大丈夫だ。落ち着け」

［とびお］

俺はここあを抱きしめると、背中を優しく撫でてやる。

弟たちが寝ている場所へと案内してもらうと、

彼らは顔を真赤にして寝込んでいた。

［和哉＆達哉］

「うぅ……とびお……？」

［とびお］

「あぁ、とびおが来たぞ、お前ら。

もう少しだけ踏ん張ってろよ」

［とびお］

「ここあ、とにかく2人を運んで病院に連れて行こう。

俺はタクシーを呼ぶ。ここあは保険証を探しといて」

［ここあ］

「う、うん……！」

［和哉＆達哉］

「とびおー。苦しいよー……」

［とびお］

「しっかりしろよ。今助けてやるからな……！」

//暗転

//背景・黒

［とびお］

病院にたどり着いた俺達は、早速2人を診てもらった。

［とびお］

結論から言うと、命に別状はないらしい。

インフルエンザと症状が似ている

別のウイルス性の病気にかかったとかなんとか。

［とびお］

ひとまず2人は今日のところは入院させてもらい、

俺とここあは帰宅することになった。

//暗転

//道・夜

［とびお］

そして今、俺とここあは2人きりで夜の道を歩いていた。

［とびお］

静かだった。

いつも騒がしいここあが押し黙っていると、

こうも気まずくなってしまうものなのか

［とびお］

「よかったな、ここあ。

しばらく安静にしてれば治るってさ」」

［とびお］

沈黙に耐えきれず、俺は努めて明るく声を出す。

すると、ここあはポツリと言葉を漏らした。

［ここあ］

「……怖かった」

［ここあ］

「和哉と達哉が熱を出したとき……。

お母さんが死んだ時を思い出しちゃって……。

和哉と達哉も死んじゃうんじゃないかって……」

［ここあ］

「怖かった……。

怖かったよ……うぅ……」

［とびお］

そこで、緊張の糸が切れたのだろう。

ここあは大粒の涙をぽろぽろと落とし、

大声で泣き始めていた。

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

俺は震えるここあを抱きしめる。

彼女は俺の胸に顔を埋めた状態で、堰を切ったように泣いていた。

こんなに小さな女の子が、いろんなものを背負いすぎている。

俺は、どうしたらここあの力になってやれるだろうか……？

//ヴィジュアルノベル形式終了

//4話END